

乙 第 号

福岡 晃平 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	福島 英賢
論文審査担当者	委員	准教授	河村 健二
	委員(指導教員)	病院教授	小山 文一

主論文

A combination of subcuticular sutures  
and subcutaneous closed-suction drainage reduces  
the risk of incisional surgical site infection in loop ileostomy closure

皮下埋没縫合および皮下閉鎖式陰圧ドレーン挿入による、  
回腸人工肛門閉鎖術後創部感染の減少効果について

Kohei Fukuoka, Fumikazu Koyama, Hiroyuki Kuge, Shinsaku Ohara, Takayuki  
Nakamoto, Yousuke Iwasa, Takeshi Takei, Yayoi Matsumoto, Tomomi Sadamitsu,  
Masayuki Sho.

Surgery Today. 2020 Sep 4. doi: 10.1007/s00595-020-02128-x. Online ahead of print.

PMID: 32888080

## 論文審査の要旨

ループ式回腸ストマ閉鎖術は、消化器外科においては比較的侵襲の小さい手術であるが、術後合併症の多い術式である。合併症の大半は創部感染症 (Surgical site infection (SSI)) である。これまで環状皮膚縫合や局所陰圧閉鎖療法など様々な対策が講じられてきたが、満足できる成果は得られていなかった。

本研究は、創部閉鎖方法に関して皮膚全層を結節縫合で閉鎖する従来法と、真皮埋没縫合と皮下閉鎖式陰圧ドレナージを組み合わせた術式（以下、新法）とを比較した研究である。後方視的検討であるが、2010 年を境に術式を従来法から新法に変更された。SSI の発生頻度は、従来法の 75 例中 7 例 (9.3%) から新法の 103 例中 1 例 (0.9%) に有意に低下した。創部感染に関わる因子を単変量および多変量解析で検討した結果、新法が唯一の独立した予防因子として抽出された。この新法は簡便な方法であり、ストマ閉鎖術にとどまらず他の術式にも応用可能であり、今後の消化器外科学の発展に寄与することが期待できる。

公聴会では、両群の患者背景の差異、ストマ造設から閉鎖術までの期間と合併症発症との関連性、結腸ストマ閉鎖術への応用の可能性、閉鎖式陰圧ドレーンの陰圧が組織修復に与える影響についての基礎的研究への発展に関して質問されたが、いずれも的確な考察のもとに適切に回答され、学位研究の成果が認められた。

以上より、本研究は博士（医学）の学位に値すると評価できる。

## 参 考 論 文

1. The prognosis and recurrence pattern of right- and left- sided colon cancer in Stage II, Stage III, and liver metastasis after curative resection  
Yasuyuki Nakamura, Daisuke Hokuto, Fumikazu Koyama, Yasuko Matsuo, Takeo Nomi, Takahiro Yoshikawa, Naoki Kamitani, Tomomi Sadamitsu, Takeshi Takei, Yayoi Matsumoto, Yosuke Iwasa, Kohei Fukuoka, Shinsaku Obara, Takayuki Nakamoto, Hiroyuki Kuge, Masayuki Sho.  
Annals of coloproctology 2020 Sep 18. doi: 10.3393/ac.2020.09.14.
2. 直腸癌術後に判明した尿管損傷に対するリカバリーショット手術  
小山文一、久下博之、尾原伸作、中本貴透、福岡晃平、庄雅之  
手術 第74号 第3号 page 335-341 (2020.3.1)
3. 腹腔鏡下臍体尾部切除術の術後成績  
福岡晃平 高濟峯 中村広太 岩佐陽介 紙谷直毅 松阪正訓  
向川智英 石川博文 渡辺明彦  
奈良県総合医療センター医学会雑誌 19 卷 Page 28-31 (2015)
4. 下部直腸癌に対する反転法を用いた腹腔鏡下定位前方切除術の有用性  
向川智英 渡辺明彦 岩佐陽介 福岡晃平 紙谷直毅 高濟峯  
石川博文 松阪正訓  
奈良県総合医療センター医学会雑誌 19 卷 Page 7-11 (2015)

5. 胃粘膜下腫瘍として切除した緩和型胃アニサキス症の1例

岩佐陽介 渡辺明彦 福岡晃平 紙谷直毅 向川智英 石川博文

渡辺明彦 松阪正訓 中谷敏也 菊池英亮 関川進

奈良県総合医療センター医学会雑誌 19 巻 Page 36-40 (2015)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに消化器機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

救急病態制御医学

教授 福島 英賢

学位審査委員

運動器再建医学

准教授 河村 健二

学位審査委員(指導教員)

消化器機能制御医学

病院教授 小山 文一